

2月25日正午必着

明石春浦先生書



清溪繞屋可濯足、好鳥隔江如喚人（李白）

家をめぐって流れる清き小川は足をすすぐに適し、可愛らしい小鳥は江をへだてて人を呼ぶかの如くさえずっている。

窪田華岳先生書



瓶冰知天寒（李白）

天氣が寒さをまして花瓶の水がこおる。

2月25日正午必着

飛火野は春きはまりて山藤の花こぼれ來も 瑠璃の室より (吉野 秀雄)

送二人歸山 (石 召)  
相逢惟道在 誰不共知貧  
歸路分殘雨 停舟別故人  
霜明松嶺曉 花暗竹房春  
亦有棲閑意 何年可寄身

相逢うて 惟だ道のみ在り 誰か共に貧なることを知らざらん  
歸路 殘雨を分ち 舟を停めて 故人に別る  
霜は明らかなり 松嶺の暁 花は暗し 竹房の春  
亦た棲閑の意有り 何れの年か 身を寄す可き

千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅 (柳宗元)  
孤舟蓑笠翁 獨釣寒江雪

千山 鳥飛ぶこと絶え 万徑 人蹤滅す  
孤舟 蓑笠の翁 独り釣る寒江の雪

山々には鳥も飛ばず 小路には人の通ったあともない  
一そうの小舟にみのかさをつけた翁 ひとり 寒江の  
雪の中で釣り糸をたれる

布德行惠 (月 令)

徳をしき恵を行う。

政治がよく、徳をほどこし、恵みを行うこと。

### 条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

僧房逢著款冬花

出寺吟行日已斜

十二街中春雪遍

馬蹄今去入誰家 (張 籍)



西 墨濤先生書

半紙部規定課題A

2月25日正午必着

外事 羨君 無

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

2月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

寄「邪逸人」

鄭常

羨君無外事

日與世情違

地僻人難到

溪深鳥自飛

儒衣荷葉老

野飯藥苗肥

若問湖邊意

而今憶共歸

邪逸人に寄す

鄭常

羨む 君が外事無く

日に世情と違ふことを

地僻にして 人到り難く

溪深くして 鳥自ら飛ぶ

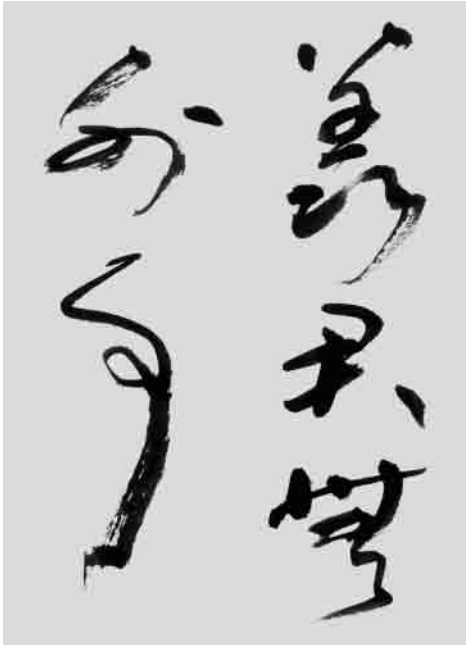
儒衣 荷葉老い

野飯 藥苗肥ゆ

若し湖辺の意を問わば

而今 共に帰らんことを憶う

草書

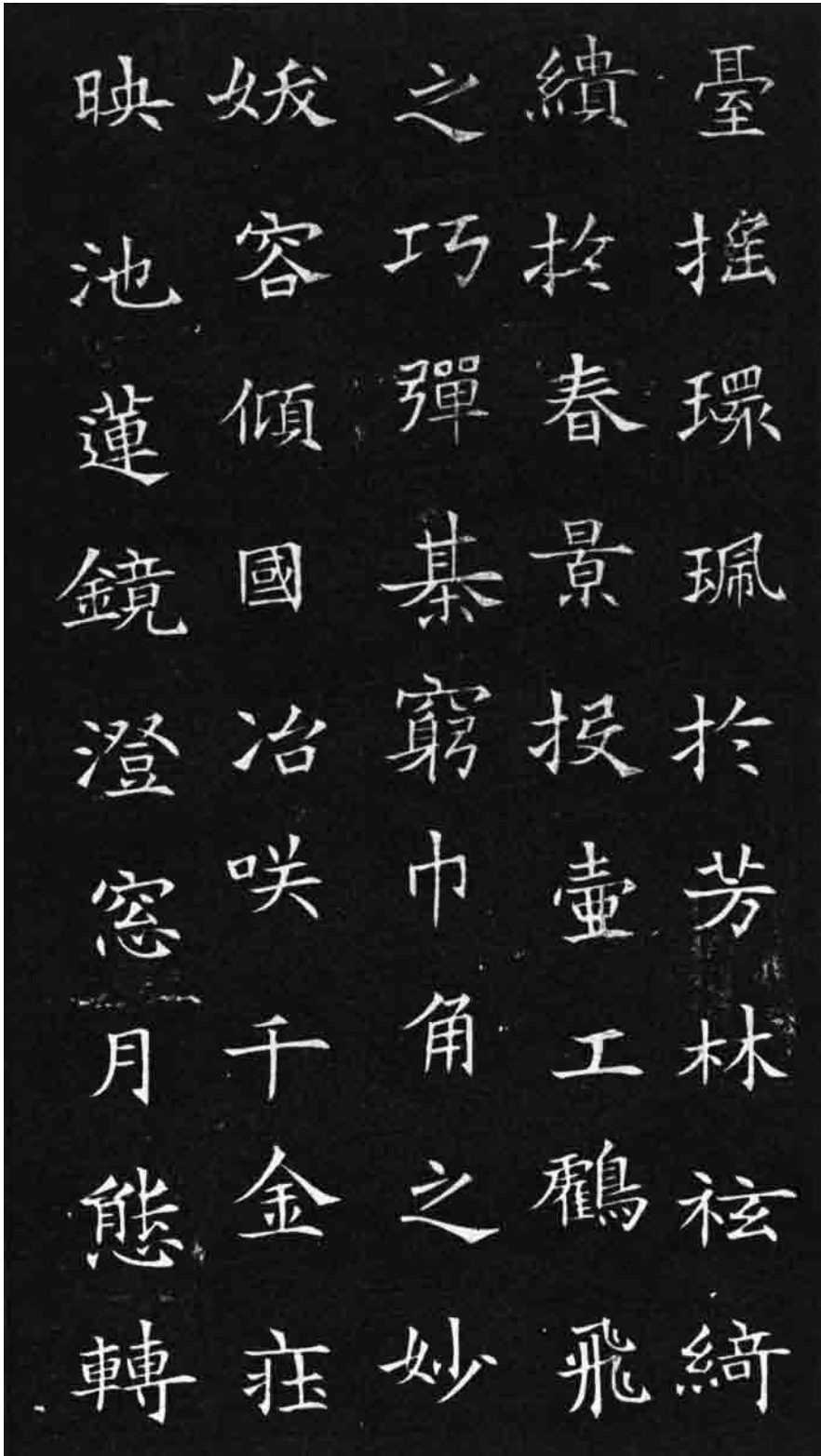


行草書



まったく羨ましい、君は周辺の雑事にわずらわされることなく 日々に、世俗のおもいから遠ざかっていられるのだから  
辺鄙なところに住んでいるので、人はめったにやってくる来ないし 谷間の奥深きところ、鳥はおのがじし飛びめぐる  
蓮の葉の老いたるをとって儒服とし 葉草の苗の肥えたのをとって、粗末な食事をされる

もしも湖のほとりに隠棲するつもりがあるのかとおたずねならば いまも共に帰隠しようとする思いを忘れてはいない  
(と答えますように)



台 搖 環 珮 於 芳 林 炫 綺 / 續 於 春 景 投 壺 工 鶴 飛 / 之 巧 彈 碁 窮 巾 角 之 妙 / 妖 容 傾 國 冶 咲 千 金 莊 / 映 池 蓮 鏡 澄 窓 月 態 轉

（出でて梁）台に（事う）環珮を芳林に揺し、綺績を春景に炫かす。投壺は鶴飛の巧を工みにし、彈碁は巾角の妙を窮む。妖容は国を傾け、冶咲は千金。莊は池蓮に映じ、鏡は窓月に澄む。態は（廻眸の艶を）転じ、



(綺)績を春景に(炫かす)。投壺は鶴飛の巧を工みにし、弾棊は(巾角の妙を)窮む。



妖容は国を傾け、

隋 美人董氏墓誌銘

西晉時代以後約二世紀半の間、南北に対立していた中国を統一した隋王朝(五八一年〜六一八年)は、短命でありながらも大運河の開削などの大事業を行い、後の三百年にも及ぶ唐王朝の礎を築き上げた時代であったと言われている。

書道史においても、かの初唐の三大家が生を受けた時代でもあり、北朝の気骨溢れる書風と南朝のおおらかさを調和させた新興精神に基づいた新たな意欲が表出した時代であったと言われている。

ここにあげた美人董氏墓誌銘は、隋書で最も多く存する石刻文字の中でも殊に優れたものとして伝えられている。美人とは漢代に設けられ明代に及んだ宮中の女官の官名で、開皇十七年(五九七年)初代文帝の四男で蜀王の秀が、一九歳という若さで病死した美人董氏のために自ら哀悼の文を作って墓誌銘(故人の経歴や徳行を記した銘文)を刻させて葬ったものである。

縦横五二センチ・二一行・全四一文字。間架結構法に秀でた端正な字形と筆法の明解さは、まさに楷書学習の範となるべき傑作であろう。(春濤)



り

ろん

中学一年

雨宮春聲先生書



ごう

けん

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



とも  
友

たち  
達

小学五年

藤井良泰先生書



わた  
綿

ゆき  
雪

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



2月25日正午必着



だい

こん

小学三年

細谷春誠先生書



へん

か

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ る 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

火 山 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

冬ふゆの野山ののは白しろい雪ゆき  
 の花はなででおおわわれれた

小学五年

人ひと間まは感かん動どうすする心こころを  
 忘わすれれててははいいけけなない

小学六年

霜しもの降ふりる寒さむい朝あさ通とほり  
 の水みづたたままりりも氷こおりつつく

中 学

氷こおりを破やぶり水みづをくみ暖ぬる  
 かい室むろで茶ちやをたたててる

一般(級位)

うぐひすうぐひすの鳴なく野のべべここにに来きててみみればらば移うつろろふ花はなにに風かぜを吹ふきける  
 ねば移うつろろふ花はなにに風かぜを吹ふきける

一般(段位)

うぐひすの鳴く野べこにきてみれば移ろふ花に風ぞ吹きける(よみ人知らず)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ゆ	ひ
き	ろ
が	い
っ	の
せ	は
ん	ら
	で

幼 年

が	む
	こ
白	う
く	の
み	
え	や
る	ま

小学一年

く	大
ら	き
ま	な
ん	声
じ	で
ゆ	お
う	し

小学二年

の	氷
ち	で
よ	作
う	っ
こ	た
く	動
	物

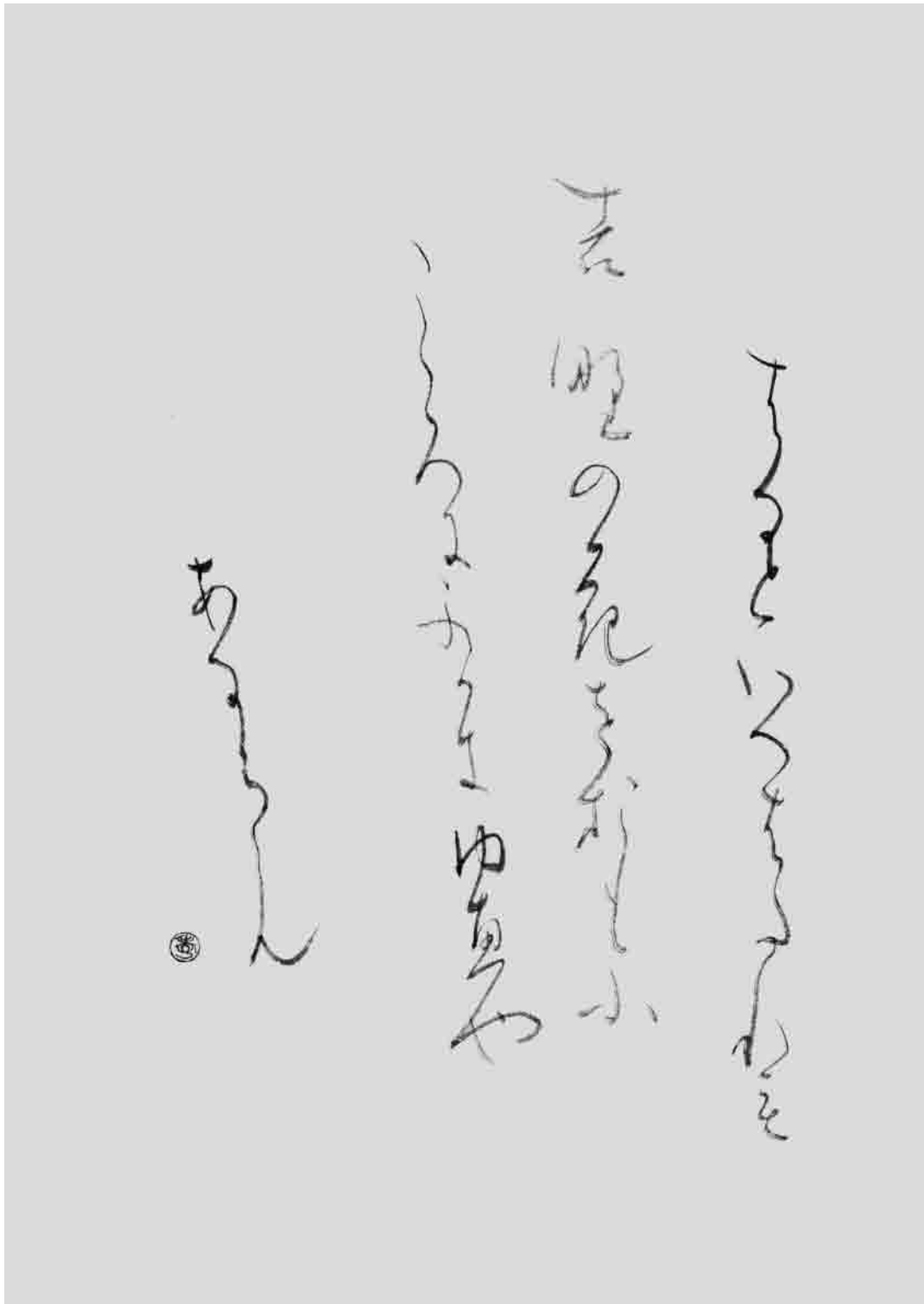
小学三年

り	冬
の	の
平	湖
和	は
な	わ
里	た
で	り
す	ど

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

者 是るといへば  
 者 多たれも吉野よしのの  
 毛 花はなをおもふ  
 於 ころにふかき  
 尔 可支 ゆえやあるらん  
 患  
 (西行)